

皆で民商チラシ1300枚を扶桑町に配布！

尾北民商は新しい仲間を増やすため、11月28日（日）の午前に扶桑町で宣伝統一行動を行いました。

扶桑町役場の駐車場に各支部から合計16人が参加し、山下拡大推進委員長と岡田扶桑支部長からのあいさつの後で、民商チラシの配布活動を行ないました。

配布地域に合わせて「扶桑町中小企業者月次応援金」、「扶桑町コロナ感染対策事業者等応援補助金」についても紹介したチラシを作成し、当日は扶桑町内を中心に、約1300枚を配布しました。

朝の集合時は気温が低く、初冬の寒さでしたが、晴天の下を歩くうちに汗ばんでくる陽気となりました。

コロナ禍の影響は重く、全ての業者が直接間接にその影響を受けています。仕事の減少や仕入れの滞りが



いよいよ響いてきたという人も多い状況だからこそ、使える制度はすべて使って営業と生活を守りましょう。

あなたの周りにも困っている業者がきっといます。ぜひ民商に紹介してください。

尾北民商ニュース

2021年
12月6日号
TEL 0587-54-0524
FAX 0587-54-1390

業者へのきめ細かな支援を求めて江南市と懇談！

11月22日（月）に江南市と懇談を行いました。民商からは役員ら9人が参加し、日本共産党の掛布議員が同席しました。当局からは10人が対応しました。

民商のアンケートで今年度は1割以上3割未満の売上減が4人に1人いること、江南市の企業概況調査では自由記入欄は直接支援を求める意見が多いことを伝え、地方創生臨時交付金は地域目線に立った幅広い層への支援のためであると訴え、「江南市中小企業者等応援金」について、売上減少幅30%未満の業者への対象拡大を求めました。



また現在、江南市が行っている「あいスタ認証制度促進奨励金」に関して、星の数によって交付額に差をつけるのはやめるように要請しました。

江南市の融資補助の実績額が低いことについては、対象となる融資額の上限が200万円と近隣自治体の相当する制度と比べて低いことをあげ、制度の継続と拡大を訴えました。

また滞納問題について、所得階層別の滞納状況を3市2町で江南市だけが開示していません。現状把握の前提となる情報の開示を、あらためて強く求めました。

また、所得減少による市・県民税の減免について、申し込んだ人が公開されていない基準を理由に却下された例を挙げ、休業・廃業に限定せず条例に基づいて減免を行うように訴えました。

国保・介護・後期高齢保険の減免についても去年に比べ減免額・件数とも大きく減っており、コロナ減免の年収比較に令和元年の選択を加える事、令和2年の年間収入には持続化給付金を加算できるようにする事、年間所得がゼロ及びマイナスの世帯も減免対象とすることを求めました。

大口町との懇談は12月16日（木）13：30～14：30の予定です。自治体への要望がある人は、最寄りの役員・事務局にご連絡ください。岩倉市との懇談の日程も、決まり次第お伝えします。